

特集 大雨に備える

熊本地震により地盤全体が沈下しているため、河川の氾濫などが発生する危険性が高い状況が続いています。河川堤防などの復旧は進んでいますが、まだ完全ではありません。早めの避難を心掛けましょう。

雨の季節に突入

6月になり、大雨や長雨による水害や土砂災害が起こりやすい季節となりました。近年の異常気象により、集中豪雨や台風が全国各地で大規模な水害・土砂災害を引き起こし、多くの犠牲者が出ています。

被害を最小限に抑えるためには、日ごろの備えや避難行動の確認が大切です。あらためて、水害・土砂災害に対する防災について考えましょう。

早めの避難を！

大雨は、ある程度事前に予測ができるので、天候が悪化する前に早めの避難行動を取ることが大切です。気象情報や河川の水位などの情報を収集し、避難に備えましょう。

しかし、突然の集中豪雨など、道路に水があふれ出す状況であれば、歩いて移動するのは危険です。特に夜間は視界が悪く、慣れた道でも思わぬ状況になることがあります。実際にそういった状況で避難所に向かい、人的被害が発生したケースもあります。状況に応じて、自宅の2階など高いところに避難することも考えましょう。

また、山沿いでは土砂災害による被害を避けるため、山と反対側の2階の



避難行動の種類

●屋外が安全で移動できる状態のとき(水平避難)

- ①指定避難所への移動
- ②警戒区域などにある自宅から安全な場所への避難(親戚や友人の家など)
- ③近隣の強固で高い建物などへの移動



●屋外が危険な状態などのとき(垂直避難)

- ④建物内の安全な場所での退避(家屋内の垂直避難)



部屋や玄関付近のスペースに滞在するなど、命を守る行動をしてください。

災害に役立つ知識を身に付ける

どうしたら命を守る行動ができるか? それは、災害時に身を守る知識をできるだけ多く習得することです。日ごろから、防災について家族で話し合うことで得た知識、テレビ・イン

ターネットなどの情報で得た知識が、命を守ることにつながります。

また、高齢者などは、災害時に1人での速やかな避難が困難なので、自分で災害に備えるには限界があります。自治会など地域で相談し合い、情報共有をしておくこと、知識が増えるだけでなく、災害時に協力しやすいコミュニティになります。